

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 5年 3月 10日

事業所名 おひさまはうす

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		場所と活動をセッティングしたり、気になるものの配置を工夫したりしている。	まだ年齢の小さいお子さんの利用が増えてきたため、物の配置や使用する机のサイズなどに配慮する。
	2 職員の配置数は適切である	○		特にコミュニケーションの支援の際には、2名体制で対応している。	配置数は適正だが、職員同士の統一した関わりや支援内容の理解と共有に努めたい。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		場所と活動をセッティングしたり、気になるものの配置を工夫したりしている。また、それぞれに合わせたスケジュールなどの視覚的な手がかりも活用している。	物の配置や小さいお子さんでも使用できる家具をもう少し増やしたい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○	○	自分が過ごしやすい、ここにいたいと思える空間にできるよう掃除などを行っている。	建物自体が広く、かつとても汚れが目立つところがある→できる限りの工夫（壁紙シールを貼るなど）を実施したい。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		療育終了後、対応に当たったスタッフと振り返りを実施し、次回までの工夫を必ず共有している。	今後も継続していきたい。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		基本的に保護者同席での療育であり、実際に活動している様子を見て頂きながら、その活動の目的なども話している。	今後も継続していく中で、保護者やご本人のニーズに答えていきたい。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		毎年、HPでの公開と、保護者向けの掲示板にアンケート結果を貼りだしている。	今後も継続していきたい。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○	○	相談支援事業所の方や、行政の方にもいつでもオープンにしている。	同じような職種、慣れた方になってきている→他業種からの視点も取り入れていく予定（近隣住民の方、民生委員の方など）
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		今年度は、自閉症をテーマに全3回の職員研修を実施した。	今後も保護者やご本人たちのニーズに答えられるような研修を実施していきたい（意思決定支援、就労に関すること等）
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		自閉症eサービスが開発した「評価キット」を活用している。	小さいお子さんが増えてきているため、また違った視点のアセスメントツールについて学ぶ必要がある。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	現在、Vineland-II 適応行動尺度 マニュアルを使用できるよう学んでいる。	今後取り入れていきたい。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		お子さんに合わせ、様々な領域から5つ程度を抜き出して計画している。	今後も継続していきたい。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		保護者同席での療育の為、常に支援計画を共有しながら進めている。	今後も継続していきたい。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている		○	現在多くても2名の職員で立案を行っている。	もっと他の職員にも関わってもらい、様々な意見を取り入れていく事ができるようにしたい。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		お子さんの年齢が小さいうちにはできる限り様々な領域の課題に取り組みようとしている。	今後も継続していきたい。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している		○	コロナ感染の影響もあり、基本的に個別療育のみの実施になった。	次年度からは、ニーズに合わせたグループ活動にも取り組んでいきたい。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		特に取り組む課題、コミュニケーションが出やすくなるための設定などについて確認している。	それでも足りないと感じる部分もあるので、うまく時間をとれるよう共有用の記入シートを作成するなどしていきたい。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		実施後は必ず共有している。	今後も継続していきたい。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		指定の記録用紙に必ず記載をしている。	ニーズに合った記録用紙の使い分けも必要（例：家事活動用→課題分析、コミュニケーション→サンプル用紙など）
20 定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		毎回保護者同席で説明をしながら実施しているため、毎日がモニタリングのようになっている。	今後も継続していきたい。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管が状況を毎回確認してしており、参加している。	今後も継続していきたい。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		行政、保健師、その他必要機関と連携し、必要に応じて情報交換している。	今後も継続していきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		法人の別事業として子育てに関連する委託部門があり、そこと連携をしながら一体的に支援している。	今後も継続していきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		個人情報の取り扱いには最新の注意をし、保護者から同意を得た場合には小学校等に情報電伝達を行っている。	これまで未就学児の利用が少なかったため、個別のやり取りで十分情報共有ができていたが、今後利用児が増えてきた場合、共有の場の設定(定例会議を開催するなど)をしていきたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		自立支援協議会の児童通所連絡会に参加している。	今後も引き続き参加し、連携を図っていききたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	そもそも利用児の方は基本的にすでに保育所等に通っておられる方なので交流できている。	保育所等に通っておられない方が利用される場合には行政等につないでいく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		必ず毎回参加している。必要に応じて相談支援事業所や行政への意見の提案もしている。	今後も地域でより豊かに生活していくことができるようサポートしていきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		保護者同席での療育の為、常にお子さんの状況や課題を共有しながら進めている。	保護者同士でのやり取りにも繋げていきたい。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		お子さんの言動の背景を常に考えてもらい、一人ひとりの理解に合わせた支援の仕方を一緒に検討している。	今後も継続していきたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		○	今年度途中から追加になったベースアップ加算についての説明が遅くなった方がいた。	今後は事前に変更が予想される場合、事前に状況を伝えたり、変更があった場合には丁寧な説明に努めた。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		何のために支援なのか、その根拠が支援計画のどの部分になるのかについて説明しながら確認をしている。モニタリング時期には同意をえている。	口頭で説明するだけでなく、実際に書面を介して説明するようにしていきたい。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者同席での療育の為、子育ての悩み等については毎回必ずやり取りしている。	今後も継続していきたい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		法人関係者が開催する座談会を勧めている。	今後については、事業所単位で保護者会も実施していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している		○	療育時に直接やり取りできるときは迅速に対応しているが、メールで連絡をいただいた際には返信まで時間がかかってしまうことがあった。	連絡調整の仕方を整理し、メールでの問い合わせについても迅速に対応したい(事務員との役割分担を明確にするなど)。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		法人が発行する会報に活動報告を記載している。ただ、頻度が少ない。	今後は個人情報に配慮しながら、HP上のFacebookなども活用していく予定。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		契約時に同意書等にサインをもらっている。	今後、FacebookなどのSNSを活用していく予定のため、改めて個人情報の管理には十分配慮していく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		コミュニケーションプログラムの中で、自分の意志を自発的に伝えるような活動に取り組んでいる。	今後も継続していきたい。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	コロナ感染の影響もあり、今年度はあまり実施できなかった。	次年度についてはコロナ感染症関連も落ち着いていくことが見込まれるため、様々な地域活動を実施していきたい。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	事業所内では作成しているが、保護者の方には見えにくい場所にマニュアル等を保管してしまっていた。	次年度はマニュアル関係は保護者も見えやすい場所に掲示し、訓練の様子等についてはfakebookで報告していきたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	今年度も通報訓練等を行った。また、避難経路の動線の確保の確認なども実施した。	次年度も継続していく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	そのような確認が必要なお子さんは現時点では利用されていない。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	そのような確認が必要なお子さんは現時点では利用されていない。	ただ、調理やお子さんが口にするものについては必ず保護者の方に確認するよう徹底している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	回覧ボックスを活用して周知している。	今後も継続していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	虐待防止委員会が計画した研修に参加することに加え、特性に関連する研修等について実施している。	今後も継続していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○	そのような確認が必要なお子さんは現時点では利用されていないが、今後利用される場合は十分に説明して対応したい。	